

医学教育分野別評価 北海道大学医学部医学科 年次報告書

2025（令和7）年度

医学教育分野別評価の受審 2021（令和3）年度

受審時の医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2.33

本年次報告書における医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2.36

はじめに

本学医学部医学科は、2021年に日本医学教育評価機構による医学教育分野別評価を受審し、2022年10月1日より7年間の認定期間が開始した。カリキュラムの教育課程と学修成果を定期的にモニタし評価する体制を早急に構築すべきとの指摘を受け、教育プログラム評価委員会を新設し、あわせてカリキュラム委員会および教務委員会の役割を明確化した。またこれらの体制が有効に機能するために、医学部医学科の教学IRの構築に向けて、医学教育・国際交流推進センター内に医学教育IR部門を設置することとした。これらの組織の活動を実質化し、教育プログラムの改善を進めていくことが今後の課題である。医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2.36を踏まえ、2025年度の年次報告書を提出する。なお、本年次報告書に記載した教育活動は、日本医学教育評価機構の作成要項に則り、2024年4月1日から2025年3月31日を対象としている。また、重要な改訂のあった項目を除き、医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2.36の転記は省略した。

1. 使命と学修成果

領域1.1および領域1.3における「改善のための助言」を受け、学生向けには1年次科目「医学概論」の授業および3年次臨床医学コースガイダンス、4年次臨床実習オリエンテーションの中で、教員向けにはFDの中で本学科の使命と学修成果を採り上げ、周知を図った。地域医療からの要請を学修成果と関連づけることを含め、使命と学修成果の見直しと、学内外の関係者への使命と学修成果の確実な周知が今後の課題といえる。

1.1 使命

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

・建学の精神を受け継いだ医学部の使命を理念として掲げ、医学教育を実践している。

改善のための助言

・学生、教員を中心とした大学の構成者ならびに医療と保健に関わる分野の関係者に、その使命を確実に周知すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

前年度に引き続き3年次学生に対する臨床医学コース進級ガイダンスに加え、4年次学生に対する臨床実習オリエンテーションにおいて、本学科の使命（理念・目標）を採り上げ、周知した。また、特に新任教員を対象とした第71回FDにおいて、本学科の使命（理念・目標）を採り上げ、周知した。大学の構成者のみならず医療と保健に関わる分野の関係者に本学科の使命を周知するため、引き続き本学科のホームページでその使命を公表するとともに、使命が記載された「北海道大学大学院医学研究院・大学院医学院・医学部医学科概要」（医学部概要）を北海道内の医療施設（90施設）に送付した。

今後、学生および教員に使命をさらに周知するため、医学科学生便覧および基礎医学コースガイダンス、医学研究院・医学部FD等で本学科の使命（理念・目標）を採り上げる。また、引き続き本学科のホームページでの公表や医学部概要の送付、学外指導医が参加する臨床実習説明会等により大学の構成者ならびに医療と保健に関わる分野の関係者に、本学科の使命の周知を図る。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 1-01 臨床医学コースガイダンス（抜粋）（R6年10月1日実施）
- ・資料 1-02 全科臨床実習オリエンテーション「臨床実習後（Post-CC）OSCE について」（R6年10月11日実施）
- ・資料 1-03 第71回医学研究院・医学院FD収録動画（抜粋）（R6年10月1日実施）
- ・資料 1-04 医学部医学科ホームページ「理念・目標／アドミッション・ポリシー」
<https://www.med.hokudai.ac.jp/sch-med/philosophy.html>
- ・資料 1-05 北海道大学大学院医学研究院・大学院医学院・医学部医学科概要 2023-2024
- ・資料 1-06 医学部概要_R6_学外送付先リスト

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

・理念・目標の中で、「先進的医学研究」、「国際的視野」、「国際交流の重要性」を明示している。

改善のための示唆

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

今後の社会情勢の変化などに対応し必要に応じて見直しを行っていく。

改善状況を示す根拠資料

・なし

1.2 大学の自律性および教育・研究の自由

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための助言

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

引き続き、組織自律性を持った現在の体制を維持する。

改善状況を示す根拠資料

・なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

・「医学研究演習」、「社会医学実習」、「臨床実習」などの実習科目で、学生が自由に最新の研究結果を探索し、利用することを保障している。

改善のための示唆

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

引き続き、教育・研究の自由が保障された現在の体制を維持する。

改善状況を示す根拠資料

・なし

1.3 学修成果

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

・学修成果として、9つの達成目標をディプロマ・ポリシーに掲げている。

改善のための助言

- ・地域医療からの要請を学修成果と関連づけるべきである。
- ・学内外の関係者に学修成果を確実に周知すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

引き続き本学科の学修成果である9つの達成目標（ディプロマ・ポリシー）を医学科学学生便覧「医学とともにある学生生活」に記載し、学生および教員に周知するとともに、医学科入学生（1年次および2年次編入学生）に対し「医学概論」の授業において、3年次学生に対し臨床医学コース進級ガイダンスにおいて、これらのディプロマ・ポリシーを採り上げ、周知した。また、第71回医学研究院・医学部FDにおいて、本学科の学修成果（ディプロマ・ポリシー）を採り上げ、教員に周知を図った。学外の関係者には、引き続き本学科のホームページで学修成果（ディプロマ・ポリシー）を公表するとともに、これらが記載された「北海道大学大学院医学研究院・大学院医学院・医学部医学科概要」（医学部概要）を北海道内の医療施設（90施設）に送付した。

今後、カリキュラム委員会において、地域医療からの要請を学修成果と関連づけることを検討するとともに、学生および教員に学修成果をさらに周知するため、コースガイダンス、医学研究院・医学部FD等、周知する機会を増やす。また、学外指導医が参加する臨床実習説明会等により、本学科の学修成果（ディプロマ・ポリシー）の周知を図る。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 1-01 臨床医学コースガイダンス（抜粋）（R6年10月1日実施）
- ・資料 1-02 全科臨床実習オリエンテーション「臨床実習後（Post-CC）OSCE について」（R6年10月11日実施）
- ・資料 1-03 第71回医学研究院・医学院FD収録動画（抜粋）（R6年10月1日実施）
- ・資料 1-07 医学とともにある学生生活 2024 本文（軽量版）
- ・資料 1-08 R6年度 医学概論・医学統計学・医学史概論Ⅰ（医学概論）春ターム 授

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための示唆

- ・卒業時の学修成果と卒後研修終了時の学修成果を、より明確に関連づけることが望まれる。
- ・国際保健に関して、目指す学修成果を明確に示すことが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

今後、カリキュラム委員会において、卒後研修終了時の学修成果とより明確に関連づけた卒業時の学修成果、および国際保健に関して目指す学修成果を検討する。

改善状況を示す根拠資料

・なし

1.4 使命と成果策定への参画

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための助言

- ・使命と学修成果を策定する組織を明確にし、これらの策定・見直しを行う際には、学生を含む教育に関わる主要な構成者が参画すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

1 巡目受審以降内規を改正し、使命と学修成果（ディプロマ・ポリシー）の立案・改善をする組織として明確にすると共に、各学年から学生代表が参加する体制としたカリキュラム委員会で、使命と成果の改善へ向けた議論を開始した。

引き続き、カリキュラム委員会において、使命と学修成果の見直しを検討する。

改善状況を示す根拠資料

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための示唆

・使命と学修成果の策定・見直しを行う際には、他の医療職、患者代表、地域医療の代表者などを含む広い範囲の教育の関係者から意見を聴取することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

今後、カリキュラム委員会において、使命と学修成果の策定・見直しを行う際には、他の医療職、患者代表、地域医療の代表者などを含む広い範囲の教育の関係者から意見を聴取することを検討する。

改善状況を示す根拠資料

・なし

2. 教育プログラム

領域 2.5 における「改善のための助言」や医学教育モデル・コア・カリキュラムの 2022 年度の改訂を受け、診療参加型臨床実習の充実に向けた FD および文部科学省補助事業を実施した。MD-PhD コース、多くの学外医療機関と提携した臨床実習といった強みをさらに強化しつつ、学修成果と教育プログラムとの関係の明示、体系的な行動科学のカリキュラムの構築、診療参加型臨床実習の充実、主要な診療科での学修期間の確保が今後の課題といえる。

2.1 教育プログラムの構成

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための助言

・カリキュラム・マップを整備し、第一学年を含めた 6 年間の教育のなかで学修成果と教

育プログラムとの関係を明確に示すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

学修成果と教育プログラムとの関係を明確に示すべく、マイルストーンを設定するワークショップの開催を計画していたが、諸般の事情で未実施に終わったことから、次年度、改めて同ワークショップを実施し、学修成果と教育プログラムとの関係を整理し、カリキュラム・マップを整備する。

改善状況を示す根拠資料

・資料 2-01 令和 6 年度医学研究院・医学部 FD 開催計画（案）

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための示唆

・生涯学習につながるカリキュラムをより充実させることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

今後予定しているカリキュラム改定の中で、生涯学習につながるカリキュラムを検討する。

改善状況を示す根拠資料

・なし

2.2 科学的方法

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

・公衆衛生学で EBM が確実に教育され、臨床実習において EBM の活用が図られている。

改善のための助言

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

今後予定しているカリキュラム改定の中で、医学研究演習等の学修機会の強化を検討する。

改善状況を示す根拠資料

・なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

・MD-PhD コースを設置し、毎年1～2名が基礎系大学院に入学して学位を取得している。

改善のための示唆

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

引き続き医学研究演習およびMD-PhD コースを実施し、研究医の育成に注力する。

改善状況を示す根拠資料

・資料 2-02 R6 年度全科臨床実習オリエンテーション資料「研究者養成プログラム（MD-PhD コース）について」（R6 年 10 月 11 日実施）

2.3 基礎医学

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための助言

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

今後予定しているカリキュラム改定の中で、臨床医学との関連を意識し垂直統合した授業を増やすことを検討する。

改善状況を示す根拠資料

・なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

- ・「医学研究演習」で、学生が最新の医学研究に触れる機会を提供している。

改善のための示唆

- ・現在および将来的に社会や医療システムにおいて必要になると予測される基礎医学の領域を定め、カリキュラムに反映させることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

現在および将来的に社会や医療システムにおいて必要になると予測される情報・科学技術を活かす能力について、4 年次「臨床統合講義」の中に教育機会を設けた。今後予定しているカリキュラム改定の中で、現在および将来的に社会や医療システムにおいて必要になると予測される情報・科学技術を活かす能力を教育する科目を設けることを検討する。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 2-03 臨床統合講義時間割（2024-2025）

2.4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための助言

- ・統轄責任者を定め、体系的な行動科学のカリキュラムを構築し、実践すべきである。
- ・医療倫理学と医療法学のカリキュラムを充実すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

現行カリキュラムの枠組みの中で、昨年度、公衆衛生学および衛生学の教員が連携して行動科学、社会医学、医療法学を教育するように内容を改善した 3 年次「公衆衛生学」および「衛生学」を引き続き実施した。また臨床の見地からの行動科学、医療倫理学については、引き続き 4 年次「地域医療学」および「臨床統合講義」の中で教育を行った。

今後予定しているカリキュラム改定の中で、体系的な行動科学のカリキュラムの構築と医療倫理学と医療法学のカリキュラムの充実化を検討する。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 2-04 公衆衛生学シラバス (R6 年度)
- ・資料 2-05 衛生学シラバス (R6 年度)
- ・資料 2-06 地域医療学シラバス (R6 年度)
- ・資料 2-07 臨床統合講義シラバス (R6 年度)

質的向上のための水準

特記すべき良い点 (特色)

- ・なし

改善のための示唆

- ・現在および将来的に社会や医療システムにおいて必要になると予測される行動科学、社会医学、医療倫理学、医療法学の領域を定め、カリキュラムを調整および修正することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

今後予定しているカリキュラム改定の中で、検討する。

改善状況を示す根拠資料

- ・なし

2.5 臨床医学と技能

基本的水準

特記すべき良い点 (特色)

- ・卒業後に適切な医療的責務を果たせるように、多くの学外医療機関と提携し、学生に臨床実習の機会を提供していることは評価できる。

改善のための助言

- ・卒業後に適切な医療的責務を果たせるよう、診療参加型臨床実習を充実させるべきである。
- ・総合診療科/家庭医学を含め、主要な診療科で学修する期間を十分に確保すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

引き続き北海道内約 60 の学外医療機関と連携し、学生に臨床実習の機会を提供した。診療参加型臨床実習を充実させるため、「地域に根付く若手医師を育成するために必要なこと～診療参加型臨床実習を中心に～」をテーマに第 72 回医学研究院・医学部 FD を開催した。また、改正医師法の施行を踏まえ、診療参加型臨床実習の趣旨を再確認すると共に、診療参加型臨床実習を進めるための実習評価をテーマに、第 73 回医学研究院・医学部 FD を開催した。

さらに、文部科学省「高度医療人材養成拠点形成事業（高度な臨床・研究能力を有する医師養成促進支援）」に申請し採択され、シミュレーション教育の充実、同僚指導制度（シニア・トレイニー制度）の開発、CC-EPOC による臨床実習管理の強化に向けた取り組みを開始した。

今後予定しているカリキュラム改定の中で、診療参加型臨床実習を充実と主要な診療科で学修する期間の確保を検討する。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 2-08 R6 学外実習病院施設一覧
- ・資料 2-09 第 72 回医学研究院・医学部 FD ポスター（R6 年 7 月 5 日実施）
- ・資料 2-10 第 73 回医学研究院・医学部 FD ポスター（R6 年 7 月 25 日実施）
- ・資料 2-11 高度医療人材養成拠点形成事業申請書（ポンチ絵）

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための示唆

- ・すべての学生が早期から患者と接触する機会を持つカリキュラムの構築が望まれる。
- ・教育プログラムの進行に対応した臨床技能教育を実施することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

今後予定しているカリキュラム改定の中で、早期臨床現場体験を組み込むことを検討する。

改善状況を示す根拠資料

- ・なし

2.6 教育プログラムの構造、構成と教育期間

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための助言

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

今後予定しているカリキュラム改定の中で、基礎医学、行動科学、社会医学および臨床医学の配分と、教育範囲、教育内容、教育科目の実施順序を再検討する。

改善状況を示す根拠資料

・なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための示唆

・カリキュラムにおける水平的統合と垂直的統合を推進することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

公衆衛生学および衛生学については、現行カリキュラムの枠組みの中で、両教室の教員が連携して行動科学、社会医学、医療法学を教育する実質的な水平的統合を行い、実施した。

今後予定しているカリキュラム改定の中で、他の水平的統合と垂直的統合を検討する。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 2-04 公衆衛生学シラバス（R6 年度）
- ・資料 2-05 衛生学シラバス（R6 年度）

2.7 教育プログラム管理

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための助言

・カリキュラム委員会に幅広い学年から学生が参画し、適切に議論に加わるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

1 巡目受審後、カリキュラム委員会内規を改正し、各学年から学生代表を委員に迎える体制とし、幅広い学年から学生が参画し、議論に加わる体制を整えた。

引き続き、幅広い学年から学生が参画し、議論に加わる体制を維持する。

改善状況を示す根拠資料

・資料 1-09 北海道大学医学部医学科カリキュラム委員会内規（R4 年 4 月 1 日改正）

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための示唆

・カリキュラム委員会の役割や権限を明確にし、その機能を実質化して、教育カリキュラムの改善を確実に実施することが望まれる。

・カリキュラム委員会に教員と学生以外の広い範囲の教育の関係者を含むことが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

1 巡目受審後、カリキュラム委員会内規を改正し、学修成果（ディプロマ・ポリシー）の立案・改善も行う組織であることを明確にすると共に、学外有識者を委員に迎える体制を整えた。

今後、教員、学生、それ以外の広い範囲の教育の関係者で議論し、教育カリキュラムの改善を実施する。

改善状況を示す根拠資料

・資料 1-09 北海道大学医学部医学科カリキュラム委員会内規（R4 年 4 月 1 日改正）

2.8 臨床実践と医療制度の連携

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

・医学教育・国際交流推進センターと臨床研修センターが定期的に連絡会議を開催し情報共有を図っている。

改善のための助言

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

卒前教育と卒後の教育・臨床実践との間の連携のため、引き続き、医学教育・国際交流推進センターと臨床研修センターが定期的に連絡会議を開催し情報共有を図った。

改善状況を示す根拠資料

・なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための示唆

・卒業生が将来働く病院や研究施設などからの情報を得て、カリキュラム委員会を通じて、教育プログラムを改良することが望まれる。
・地域や社会の意見を取り入れて、教育プログラムの改良につなげることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

今後、カリキュラム委員会の委員である学外医療機関の指導医などからの意見を取り入れてカリキュラムを改良することを検討する。

改善状況を示す根拠資料

・なし

3. 学生の評価

領域 3.1 における「改善のための助言」や「改善のための示唆」を受け、コア科臨床実

習の評価形式のさらなる改善を図るとともに、WpBA の浸透に向けて、大学病院主催臨床研修指導医講習会で WpBA を採り上げた。他の科目における、知識、技能および態度の適切な評価方法での実施、目標とする学修成果の達成を保証する評価の実践、形成的評価の適切な実施が今後の課題といえる。

3.1 評価方法

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- ・診療参加型コア科臨床実習において、道内三大学医学部共通評価表を用いた評価を実施していることは評価できる。
- ・指導医に加えて、患者や他の医療職が学生を評価するシステムを導入していることは評価できる。

改善のための助言

- ・すべてのカリキュラムにおいて、知識、技能および態度を含む評価を確実に実施すべきである。
- ・様々な評価方法と形式を、それぞれの評価有用性に合わせて活用すべきである。
- ・成績評価における利益相反に関する基準を定めるべきである。
- ・学生の評価は当事者以外の専門家によって吟味されるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

「診療参加型コア科臨床実習」において、各実習ローテーションでの道内三大学医学部共通評価表による資質・能力のレベル評価、総括評価に加えて、指導医から学生へのフィードバック内容を明確にするため、「学生に伝えたいメッセージ」欄を新設し学生へのフィードバックを行った。

今後、様々な評価方法と形式を、それぞれの評価有用性に合わせて活用する取組の拡大に向けて引き続き対応を進めるとともに、教務委員会で成績評価における利益相反に関する基準の策定を検討する。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 3-01 北海道内三大学医学部共通評価表 Ver6_5（北大）

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための示唆

- ・評価方法の信頼性と妥当性を確実に検証し、明示することが望まれる。
- ・全診療科において MiniCEX など新しい評価法を導入することが望まれる。
- ・外部評価者の活用を進めることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

MiniCEX 等の評価法の導入を進めるため、第 20 回北海道大学病院指導医のための教育ワークショップで、現場における観察評価（WpBA）を採り上げた。

今後、評価の当事者以外の専門家による吟味を進めるにあたって、評価方法の信頼性と妥当性の検証と外部評価者の活用を検討する。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 3-02 北大指導医 WS 配付資料_EPOC（R6 年 11 月10 日実施）

3.2 評価と学修との関連

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための助言

- ・目標とする学修成果に整合し、学生が達成していることを保証する評価を実践すべきである。
- ・学生が効果的な学修を行えるよう形成的評価を適切に実施すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

学修成果とその評価方法を設定するため、マイルストーンを設定するワークショップの開催を計画していたが、諸般の事情で未実施に終わったことから、次年度、改めて同ワークショップを実施し、学修成果に整合し、学生が達成していることを保証する評価を検討する。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 2-01 令和 6 年度医学研究院・医学部 FD 開催計画（案）

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための示唆

- ・学修効果を高めるため、試験の回数・日程・方法を調整することが望まれる。
- ・すべてのカリキュラムにおいて、学生に対して、評価結果に基づいた適切なフィードバックを行うことが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

学生に対して、評価結果に基づいた適切なフィードバックを行うため、定期試験問題と正答を試験終了後に学生に公開すること原則とすることを教務委員会で検討したが、まだ統一的な対応はできていない。

今後、上記の対応について引き続き検討すると共に、カリキュラム委員会において試験の回数・日程・方法の調整を検討する。

改善状況を示す根拠資料

・なし

4. 学生

領域 4.3 における「改善のための助言」および「改善のための示唆」を受け、合理的配慮を要する学生の対応についてFDを開催し、アクセシビリティ支援室との連携強化を図った。学生を支援するプログラムの実質化が今後の課題といえる。

4.1 入学方針と入学選抜

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- ・一般選抜、総合型選抜、学士編入学など、多様な入学者選抜を実施している。
- ・総合選抜方式では、面接試験に Multiple Mini Interview (MMI)を導入している。
- ・総合入試により入学した学生を2年次から受け入れている。

改善のための助言

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

引き続き、一般選抜、フロンティア入試（総合型選抜）、学士編入学など多様な入学者選抜を継続し、総合選抜方式では面接試験に MMI を実施した。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 4-01 R7 年度北海道大学入学者選抜要項（抜粋）
https://www.hokudai.ac.jp/admission/R07_admission.pdf
- ・資料 4-02 R7 年度北海道大学医学部医学科学士編入学（第 2 年次）学生募集要項
https://www.med.hokudai.ac.jp/sch-med/admissions/doc/gakushi-boshu_r7.pdf
- ・資料 4-03 医学部医学科ホームページ「学士編入学 志願状況等」
<https://www.med.hokudai.ac.jp/sch-med/admissions/hennyu-jokyo.html>

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための示唆

- ・入学決定に対する疑義申し立て制度を採用し明示することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

入学決定に対する疑義申し立て制度は、全学での対応を要するため、具体的な検討が進んでおらず、引き続き他大学の動向を注視している状況である。

改善状況を示す根拠資料

- ・なし

4.2 学生の受け入れ

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための助言

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

引き続き、入学者数を明確にし、学生の受け入れを行っている。R5 年度より臨時定員の増員をせず、R7 年度も引き続き 105 名の入学定員とした。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 4-01 R7 年度北海道大学入学者選抜要項（抜粋）
https://www.hokudai.ac.jp/admission/R07_admission.pdf

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための示唆

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

本学科では地域枠を設けていないことから、R5 年度の入学定員は臨時定員の増員をせず、R4 年度に比べ 7 名減の 105 名とし、R7 年度も引き続き 105 名の入学定員とした。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 4-04 （文部科学省）大学別医学部入学定員等一覧
https://www.mext.go.jp/content/20241023-mxt_daigakuc03-000038545_04.pdf

4.3 学生のカウンセリングと支援

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための助言

- ・全学年を通して学生を支援するプログラムを実質化すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

障害を持つ学生や障害ではないが修学上に困難がある学生を支援するために学生相談総合センターに設置されているアクセシビリティ支援室と連携し、第74回医学研究院・医学部FD「北大の障害学生支援を取り巻く現状と合理的配慮の実際」を開催した。学生を支援するプログラムとして、引き続きチューター制度を運用しているが、実際の運用は主に成績不良の6年次学生への対応となっている。今後、他の学年および留年者以外の学生についての運用を教務委員会で検討する。

改善状況を示す根拠資料

・資料 4-05 第74回医学研究院・医学院FD配付資料（R7年1月23日実施）

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための示唆

- ・学生の教育進度に基づいた学修上のカウンセリングの確実な実施が望まれる。
- ・キャリアガイダンスを充実することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

学生を支援するプログラムとして、引き続きチューター制度を運用しているが、実際の運用は主に成績不良の6年次学生への対応となっている。今後、留年者以外の学生についての運用を教務委員会で検討する。

改善状況を示す根拠資料

・なし

4.4 学生の参加

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための助言

- ・使命の策定、教育プログラムの管理に関わる委員会に学生を参加させることを促し、学生が議論に加わることを規定し、履行すべきである。

・教育プログラムの評価、学生に関する諸事項を審議する委員会を編成し、学生が参加し議論に加わることを規定し、履行すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

1 巡目受審後、使命の策定、教育プログラムの管理、教育プログラムの評価に関わる委員会に学生を参加させるため、カリキュラム委員会ならびに教育プログラム評価委員会に各学年の学生代表が委員として参加する体制とした。

今後、学生に関する諸事項を審議する委員会の編成を検討する。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 1-09 北海道大学医学部医学科カリキュラム委員会内規（R4 年 4 月 1 日改正）
- ・資料 4-06 北海道大学医学部医学科教育プログラム評価委員会内規（R4 年 4 月 1 日制定）

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

- ・北海道大学医学部 IFMSA（国際医学生連盟）の活動を奨励している。

改善のための示唆

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

学生の活動と学生組織を奨励するため、引き続き現行の学生の研究、修学、留学、社会活動を奨励する顕彰及び奨学金制度を継続する。

改善状況を示す根拠資料

- ・なし

5. 教員

領域 5.2 における「改善のための助言」を受け、教員の能力開発のため、引き続き多数回の FD を開催した。また、教員の業績評価をより適切にするため、教員資格に関するガイドラインの一部を改正した。医学部として教員の教育、研究、診療の職務間のバランスを把握することが今後の課題といえる。

5.1 募集と選抜方針

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- ・教員の募集と選抜方針についてガイドラインを策定し、業績の判定水準を明示している。

改善のための助言

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

引き続き現行の教員の募集と選抜方針を継続する。

改善状況を示す根拠資料

- ・なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための示唆

- ・教員の募集および選抜の方針において、使命との関連性を考慮することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

引き続き教授の募集および選抜に際し、選考委員会において、使命との関連性を考慮して検討した当該教室の在り方に基づき、書類選考や面接を行った。

改善状況を示す根拠資料

- ・なし

5.2 教員の活動と能力開発

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- ・宿泊型FDなどにより、教員の能力開発に積極的に取り組んでいる。

改善のための助言

- ・各教室単位ではなく、医学部として教員の教育、研究、診療の職務間のバランスを把握すべきである。
- ・個々の教員はカリキュラム全体を十分に理解したうえで教育に参画すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教員業績審査における審査対象期間を変更し、より適切な業績審査が実施できるよう「大学院医学研究院教員の資格に関するガイドライン」を改正した。2024 年度は、4 回の FD（うち 1 回はキックオフミーティングに続いて MEDC が提供する「医療者教育スターターキット」を利用した e-learning 形式）に加え、4 回の医学英語教育ウェビナーを開催し、教員の能力開発に取り組んだ。

今後、教員の教育、研究、診療の職務間のバランスを把握するシステムの構築を検討する。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 5-01 教員資格に関するガイドラインの一部改正（概要イメージ）（R7 年 3 月 6 日、医学研究院教授会資料）
- ・資料 5-02 ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動概要（2024 年度）
- ・資料 5-03 医学英語教育ウェビナー案内ポスター（2024 年度）

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための示唆

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2024 年度の学生数／教員数の比率は 583／340 であり、教員 1 人当たりの学生数は 1.71 人で、1 巡目受審時の 1.87 から改善した。教員の昇進の方針履行のため、引き続き、現行の教員の資格に関するガイドライン等の運用を継続する。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 5-04 教職員数 2024 年 5 月 1 日現在
<https://www.med.hokudai.ac.jp/general/data/doc/data->

- number202305. pdf
- ・資料 5-05 学生数 2024 年 5 月 1 日現在
- [https://www.med.hokudai.ac.jp/general/data/doc/data-student/data-student_2023. pdf](https://www.med.hokudai.ac.jp/general/data/doc/data-student/data-student_2023.pdf)

6. 教育資源

領域 6.2 における「改善のための助言」や「改善のための示唆」を受け、大学病院および学外医療機関における患者数と疾患分類の調査を可能とするために、CC-EPOC を導入したが、症例登録の精度（登録率）が不十分であり、十分な活用ができなかったため、R6 年度に新たに採択された高度医療人材養成拠点形成事業による取組の 1 つとして、CC-EPOC による臨床実習管理の強化に向けた取り組みを開始した。症例登録の精度向上、運用範囲の拡大を図り、臨床実習の資源を把握したうえで実習施設を整備すること、プライマリ・ケアや地域包括ケアを学生が十分に学べるように実習施設を確保することが今後の課題といえる。

6.1 施設・設備

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための助言

- ・なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

- ・将来計画委員会が中心となり、医学部や北海道大学病院の教育・研究に関わる施設・整備の見直しを定期的に行っている。

改善のための示唆

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- 引き続き施設・設備を定期的に更新、改修、拡充するため、教育・研究に関わる施設・整備の見直しを検討する。

改善状況を示す根拠資料

- ・なし

6.2 臨床実習の資源

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための助言

- ・学生が適切な臨床経験を積めるよう、大学病院および学外医療機関における患者数と疾患分類を調査し、把握したうえで実習施設を整備すべきである。
- ・プライマリ・ケアや地域包括ケアを学生が十分に学べるように実習施設を確保すべきである。

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための示唆

- ・患者や地域住民の要請をもとに、臨床実習施設を評価、整備、改善することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

大学病院および学外医療機関における患者数と疾患分類の調査を可能とするために、CC-EPOC を試験導入したが、症例登録の精度（登録率）が不十分であり、十分に活用ができなかったため、R6 年度に新たに採択された高度医療人材養成拠点形成事業による取組の1つとして、CC-EPOC による臨床実習管理の強化に向けた取り組みを開始した。

今後、症例登録の精度向上、運用範囲の拡大（全科臨床実習や診療参加型選択科臨床実習を含めた全ての臨床実習で運用）を図り、臨床実習の資源を把握したうえで実習施設を整備することを計画する。また、プライマリ・ケアや地域包括ケアを学生が十分に学べるように実習施設を確保することを検討する。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 6-01 CC-EPOC_症例入力状況一覧（2024 年後期 診療参加型コア科臨床実習）
- ・資料 2-11 高度医療人材養成拠点形成事業申請書（ポンチ絵）

6.3 情報通信技術

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- ・教育情報システムとして Education and Learning Management System (ELMS) を学生に提供している。

改善のための助言

- ・なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

- ・ICT を活用した現場中継を地域保健医療教育に取り入れていることは評価できる。

改善のための示唆

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

引き続きインターネット接続環境として Hokkaido university Information NEtwork System (HINES)、教育情報システムの Education and Learning Management System (ELMS) と学習管理システムの Moodle が利用できる ICT 環境を維持し活用した。加えて、統合情報共有プラットフォーム Unire(ユニーレ)を導入することとなり、R7 年度の利用開始に向けて準備を進めた。予算が合わず導入を見送っていた自己学習や形成的評価に資する ICT 教材は、出版社からの提供が終了したため、他の方策を引き続き検討する。

改善状況を示す根拠資料

- ・【資料 6-02】 統合情報共有プラットフォーム Unire(ユニーレ)導入概要（令和 6 年 12 月現在）

6.4 医学研究と学識

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための助言

・なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

・MD-PhD コースの学生に、返還義務のない奨学金を給付している。

改善のための示唆

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

本学科の医学研究の資源を教育に活用するため、引き続き、基礎医学実習の実施、各研究室の案内、医学研究演習を含めた研究室への希望学生の受入を継続している。また、学生が医学研究や開発に携わることの奨励するため、MD-PhD コースの学生への返還義務のない奨学金給付やコース修了後の特任助教任用のトラックを引き続き提供している。

改善状況を示す根拠資料

・なし

6.5 教育専門家

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

・医学教育・国際交流推進センターに所属する教育専門家が、カリキュラム、教育技法および評価方法の開発を実施している。

改善のための助言

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

引き続き、医学教育・国際交流推進センター教員が、カリキュラム委員会、教務委員会、教育プログラム評価委員会等の委員を務め、カリキュラム、教育技法および評価方法の開発にあたっている。

今後予定しているカリキュラム改定においても、中心的な役割を担う。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 1-09 北海道大学医学部医学科カリキュラム委員会内規（R4 年 4 月 1 日改正）
- ・資料 4-06 北海道大学医学部医学科教育プログラム評価委員会内規（R4 年 4 月 1 日制定）
- ・資料 6-03 北海道大学医学部医学科教務委員会内規（R4 年 4 月 1 日改正）

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

- ・教職員の教育能力向上において学内外の教育専門家が活用されている。

改善のための示唆

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

多くの教員が教育に関する研究発表を行った。

引き続き、医学教育・国際交流推進センター教員が、医学研究院・医学部 FD の企画運営を行っており、今後も継続する。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 5-02 ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動概要（2024 年度）
- ・資料 6-04 医学教育研究業績リスト（医中誌 Web）
- ・資料 6-05 医学教育研究業績リスト（PubMed）

6.6 教育の交流

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- ・学生が海外の教育機関と活発に交流している。
- ・海外の大学から年間 30～50 名程度の学生を受け入れていることは高く評価できる。

改善のための助言

- ・国外だけでなく、国内の教育機関との交流もさらに推進すべきである。

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための示唆

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

コロナ禍で休止していた海外からの学生受入を 2023 年度後半より再開し、2024 年度は 37 名を受け入れた。また海外の教育機関への学生派遣について、R6 年度に選択科臨床実習として 6 名を派遣した。

今後、国外だけでなく、国内の教育機関との交流を検討する。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 6-06 第 194 回国際連携部門会議資料（抜粋）（R7 年 3 月 11 日開催）
- ・資料 6-07 R6 診療参加型選択科臨床実習配属について（R6 年 2 月 29 日、医学科会議資料）

7. 教育プログラム評価

領域 7 における「改善のための助言」や「改善のための示唆」を受け、教育プログラム評価に必要なデータを統括的に収集・分析するため、医学教育・国際交流推進センター内に医学教育 IR 部門を設置した。今後、医学教育に関する IR 活動を実質化し、評価結果をカリキュラムに反映することが課題といえる。

7.1 教育プログラムのモニタと評価

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- ・教学アセスメントの実施に向けて、医学部医学科アセスメント・ポリシーを定めている。

改善のための助言

- ・医学部として教育プログラム評価に必要なデータを特定し、これらを統括的に収集・分析する仕組みを整えるべきである。
- ・収集・分析したデータを基に教育プログラムを評価する独立した組織を早急に構築すべきである。
- ・教育課程と学修成果に関するデータを基に教育プログラム評価を実施し、その結果を確実にカリキュラムに反映すべきである。
- ・カリキュラムとその主な構成要素、学生の進歩、課題の特定の観点から教育プログラム

評価を実施すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育プログラム評価に必要なデータを収集・分析し、教育プログラムを評価するため、I 巡目受審以降に教育プログラム評価委員会を新設した。教育プログラム評価に必要なデータを統括的に収集・分析するため、2024 年度に医学教育・国際交流推進センター内に医学教育 IR 部門を設置した。。

引き続き大学総合 IR 本部教学部門と連携し、医学教育に関する IR 活動を進める。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 7-01 総合 IR 本部教学部門との協議（学生・卒業生アンケートに係る説明次第【医学部医学科】、2024 年 10 月 16 日開催）
- ・資料 7-02 医学教育・国際交流推進センター内規改正案（R7 年 3 月 6 日、医学研究院教授会資料）

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための示唆

・教育活動とそれが置かれた状況、カリキュラムの特定の構成要素、長期間で獲得される学修成果、社会的責任の観点から定期的、包括的に教育プログラムを評価することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

今後、医学教育に関する IR 活動を進め、収集・分析したデータから包括的に教育プログラムを評価することを検討する。

改善状況を示す根拠資料

- ・なし

7.2 教員と学生からのフィードバック

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための助言

・カリキュラム全体について、教員と学生からのフィードバックを系統的に収集・分析し、対応すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教員からのフィードバックを系統的に収集するため、これまで開催されていた基礎系教員連絡会を、Ⅰ巡目受審以降、全教員が参加可能な教員連絡会に改め、引き続き、月1回オンライン会議で開催した。

今後、収集されたフィードバックを分析し、その結果に基づき対応を検討する。

改善状況を示す根拠資料

・資料 7-03 R6 年度医学科教員連絡会開催予定表

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための示唆

・教員と学生からのフィードバックの結果を利用して、教育プログラムを開発することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

今後予定しているカリキュラム改定において、教員と学生からのフィードバックの結果を利用してカリキュラムを改定するよう検討する。

改善状況を示す根拠資料

・なし

7.3 学生と卒業生の実績

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

・卒後5、10、15年目の全学卒業生を対象に卒業生調査を実施している。

改善のための助言

・使命と学修成果、カリキュラム、資源の提供の観点から学生と卒業生の実績を収集し、分析すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

使命と学修成果の観点から学生と卒業生の実績を収集・分析するため、総合 IR 本部教学部門と協議を行った。

今後、使命と学修成果、カリキュラム、資源の提供の観点から分析するために、さらに追加して収集する学生と卒業生の実績を検討し、総合 IR 本部教学部門と連携して収集・分析する。

改善状況を示す根拠資料

・資料 7-01 総合 IR 本部教学部門との協議（学生・卒業生アンケートに係る説明次第【医学部医学科】、R6 年 10 月 16 日開催）

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための示唆

・背景と状況、入学時成績の観点から、学生と卒業生の実績を分析することが望まれる。
・学生の選抜、カリキュラム立案、学生カウンセリングについて学生の実績を分析し、その結果を責任ある委員会へフィードバックすることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

今後、さらに追加して収集する学生と卒業生の実績を検討し、総合 IR 本部教学部門と連携して収集・分析する。

改善状況を示す根拠資料

・なし

7.4 教育の関係者の関与

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための助言

- ・教育プログラムのモニタと評価に、学生を含む教育に関わる主要な構成者を含めるべきである。

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための示唆

- ・広い範囲の教育の関係者が教育プログラムの評価結果を閲覧できる体制を整えることが望まれる。
- ・教育プログラム評価に資するため、広い範囲の教育の関係者から卒業生の実績やカリキュラムに対するフィードバックを求めることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育プログラムのモニタと評価を行う教育プログラム評価委員会を、医学研究院長補佐、教授、教務担当教員、各学年の学年代表、学外有識者等で構成し、医学科以外の北海道大学の有識者のうちから医学科長が指名する者として大学病院看護部長、学外有識者として学外医育機関の教員、本学科卒業生、模擬患者団体代表に委員を委嘱した。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 4-06 北海道大学医学部医学科教育プログラム評価委員会内規（R4 年 4 月 1 日制定）
- ・資料 7-04 R06 年度_委員会一覧（医学委員）（抜粋）（R6 年 4 月 11 日、医学科会議資料）

8. 統轄および管理運営

領域 8.1 における「改善のための助言」や「改善のための示唆」を受け、I 巡目受審以降に教学に関わる委員会として教育プログラム評価委員会を新設し、教務委員会、カリキュラム委員会の役割分担を明確にするとともに、教職員や学生を含む主な教育の関係者、地域医療を担っている学外実習指導医、大学病院看護部職員、模擬患者団体代表が参画す

る組織体制とした。

引き続き、教務委員会への学生の参画が今後の課題といえる。

8.1 統轄

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための助言

・教務委員会、カリキュラム委員会と医学教育・国際交流推進センターの医学部内における役割分担が明確でなく、それぞれの機能と権限を明確にすべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

1 巡目受審以降、教学に関わる委員会として教育プログラム評価委員会を新設し、カリキュラム委員会および教務委員会の内規を改正することで、カリキュラム委員会がディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーの立案・改善およびカリキュラムの立案・改善を、教務委員会がカリキュラムの実施を、教育プログラム評価委員会がカリキュラムの評価を行うという役割分担を明確にした。また、医学教育・国際交流推進センターの本学科における役割は、教育活動について企画、立案及び調整等を行い、医学教育の推進に資する組織という位置づけで、2024 年度も引き続き上記の教学に関する委員会の活動に参画した。さらに、臨床実習前および臨床実習中の臨床技能教育の充実と、公的化された共用試験の厳格な運営に向けて、クリニカルシミュレーションセンターをクリニカルシミュレーション推進部門として統合することとした。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 1-09 北海道大学医学部医学科カリキュラム委員会内規（R4 年 4 月 1 日改正）
- ・資料 4-06 北海道大学医学部医学科教育プログラム評価委員会内規（R4 年 4 月 1 日制定）
- ・資料 6-03 北海道大学医学部医学科教務委員会内規（R4 年 4 月 1 日改正）
- ・資料 7-02 医学教育・国際交流推進センター内規改正案（R7 年 3 月 6 日、医学研究院教授会資料）

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための示唆

・教学にかかわる委員会に教職員や学生を含む主な教育の関係者、ならびに地域医療関係者や他医療職種など、その他の教育の関係者の意見を反映させることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

1 巡目受審以降、教学にかかわる委員会に主な教育の関係者、ならびに地域医療関係者や他医療職種など、その他の教育の関係者の意見を反映させるため、カリキュラム委員会および教育プログラム評価委員会に、教職員や学生、地域医療を担っている学外実習指導医、大学病院看護部職員、模擬患者団体代表が参画する組織体制とした。また、教員からの意見を聞く場として、教員連絡会を引きつづき開催した。一方、カリキュラムを実施する教務委員会には、同委員会が学生の成績や懲戒を扱う委員会のため、学生は参加していない。

今後、教務委員会に学生を参画させる方法を検討する。

改善状況を示す根拠資料

・資料 7-04 R06 年度_委員会一覧（医学委員）（抜粋）（R6 年 4 月 11 日、医学科会議資料）

8.2 教学の執行部

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための助言

・教学のリーダーシップの責務をより明確に示すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

I 巡目受審以降、医学部長、医学教育プログラムの策定と管理に関する各種委員会等の責務をそれぞれ規程に明示した。

改善状況を示す根拠資料

・資料 1-09 北海道大学医学部医学科カリキュラム委員会内規（R4 年 4 月 1 日改正）
・資料 4-06 北海道大学医学部医学科教育プログラム評価委員会内規（R4 年 4 月 1 日

- ・資料 6-03 北海道大学医学部医学科教務委員会内規（R4 年 4 月 1 日改正）
- ・資料 7-02 北海道大学大学院医学研究院医学教育・国際交流推進センター内規（平成 30 年 4 月 1 日改正）
- ・資料 8-02 北海道大学医学部医学科入試委員会内規（令和 5 年 4 月 1 日改正）

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための示唆

- ・使命と学修成果に照合して、教学におけるリーダーシップの評価を定期的に行うことが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

引き続き、医学部長については、2 年の任期かつ再選は一度のみとの規程に基づき定期的評価を行う体制を維持した。

今後、本学科の使命と学修成果に照合した評価を検討する。

改善状況を示す根拠資料

- ・なし

8.3 教育予算と資源配分

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- ・教育関係予算の責任と権限に関する規定が整備されている。

改善のための助言

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

引き続き、教育関係予算については規定に基づき、執行会議、将来計画委員会、教授会において適切に編成及び執行している。

改善状況を示す根拠資料

・なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

・教育に関する教員の評価が報酬等に反映されている。

改善のための示唆

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

引き続き、本学科が自己決定権をもった中で、教育資源配分を決定した。

改善状況を示す根拠資料

・なし

8.4 事務と運営

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

・教育活動を支援するための事務組織が整備されている。

改善のための助言

・なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための示唆

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

引き続き、教育活動を支援するため、現在の事務組織の体制を維持した。

改善状況を示す根拠資料

・なし

8.5 保健医療部門との交流

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

・北海道内の中核医療機関や地方行政機関など、様々な保健医療部門と交流を持っている。

改善のための助言

・なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための示唆

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

引き続き、地域行政との連携として、北海道地域医療対策協議会に医学部長が参画するなど、行政の保健医療部門との建設的な交流を継続した。

改善状況を示す根拠資料

・なし

9. 継続的改良

領域 9 における「改善のための助言」や「改善のための示唆」を受け、1 巡目受審以降に教育プログラム評価委員会を新設し、教育プログラムの継続的改良を実現する体制の整備を開始した。様々な観点から教育プログラムを定期的に見直し、明らかになった課題を修正することが今後の課題といえる。

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための助言

- ・様々な観点から教育プログラムを定期的に見直し、明らかになった課題を医学部全体が責任をもって修正すべきである。
- ・教育プログラムの継続的改良を実現する体制を構築し、これを実行すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育プログラムの継続的改良を実現する体制を構築するため、教育プログラム評価委員会と評価の根拠となる情報の収集と分析を行う医学教育 IR 部門を新設し、教育プログラムの継続的改良を実現する体制の整備を開始した。

今後、様々な観点から教育プログラムを定期的に見直し、明らかになった課題を修正して行く。

改善状況を示す根拠資料

・なし